

# バッテリーから悲鳴が…？

金沢営業所 蔵川 和彦

ある日、お客さまより「非常用発電設備から警報が出ている、心配なのでみてほしい」との連絡が入り、すぐさま現場に向かいました。現場到着後、お客さまより状況をお聞きし、警報がでている非常用発電設備を確認したところ「蓄電池液面低下」という内容でした。

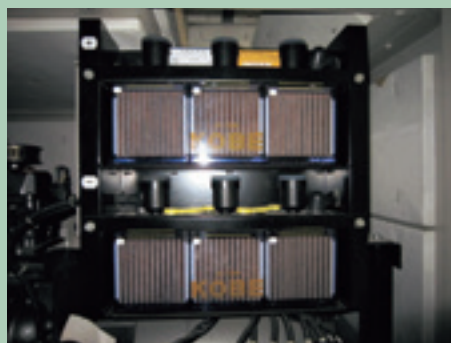
早速、起動用鉛蓄電池（バッテリー）の外観点検を実施し、低下している蒸留水を補充しようとしたのですが、各バッテリーの液面表示は上限ラインまで入っており問題ありません。そこで、センサーの不良を疑いフロート式のセンサーを取り外し、点検しましたが異常はありません。液量やセンサーも異常はなく、再度、センサーをもどすと、再び警報発報。はてさて困ってしまいました。

そこで、気を取り直し、再度、細かな部分の外観点検を実施すると、内部電極が膨張し、上部密閉箇所が盛り上がっているのに気がつきました。「これだ」と確信。原因は、内部電極が膨張し上部密閉蓋が持ち上げられたことから、センサー位置がずれて警報を発したのです。内部電極の膨張による外観不良は、経年劣化したバッテリーにみられる状況です。あわせて、触媒栓（バッテリー内部の化学反応で発生する気体を液体に戻すもの）の有効期限も過ぎていることから、このままの状態では放置しておくともバッテリー液は減ってしまい、さらに重大な不良が発生することとなります。

念のため、これだけ劣化したバッテリーで、発電機のエンジンを起動させることが出来るか確認したところ、なんとか起動したものの、非常時、起動する保障はありません。特に、気温が下がる冬場にはバッテリーの性能が低下するため、突然の停電時に発電機が動かず、長時間停電する恐れもあります。病院、生物育成の業種のお客さまでは危機的状況となります。

お客さまに状況を説明すると、「前々から保安協会の検査員から報告書で改修依頼されていた。非常時に使えないと困ることから至急改修する」と、再度、重要性を認識していただきました。後日、懸念された冬を迎えるまでに、バッテリー等を更新していただけたことを担当から聞き、故障対応した者として胸をなでおろしました。

非常用発電設備は、非常時に必ず起動しなければならない大切なものです。バッテリーや触媒栓は、経年にて性能が急激に低下する機器のため更新推奨時期があります。当協会では大切なお客さまの設備を点検し、日頃のメンテナンスも含めご提案させていただいています。設備改修にご協力いただきますようお願いいたします。



【参考】正常なバッテリー

## お詫びと訂正

でんきほあん2016陽春号のP11の表におきまして一部誤りがありました。正しくは以下の通りです。

(誤)

	保安規程届出	保安規程変更届出
事業場の名称を変更	●	
事業場の所在地を変更	●	
構内図、組織図を変更	●	



(正)

	保安規程届出	保安規程変更届出
事業場の名称を変更		●
事業場の所在地を変更		●
構内図、組織図を変更		●

皆さまならびに関係各位にご迷惑をお掛けしましたこととお詫びするとともに、ここに訂正させていただきます。